

地域の通信

わ

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

松見町 地域の居場所 てんこもりのわ

松見地区社会福祉協議会・松見連合町内会

「こどもも大人も、おばあちゃん、おじいちゃんも、みんなで、わいわい、てんこもり、わらって楽しく過ごしましょ」をキャッチコピーに、地域の居場所「てんこもりのわ」が松見町で開かれている。

毎週木曜日、9時から19時の間で、子どもから高齢者まで、それぞれの世代が出入り自由で利用できる。

「てんこもりのわ」を訪れると、地域の高齢者が折り紙を楽しみ、子どもたちはビーズ工作に熱中していた。



お互いの気配を感じつつ、自由に過ごす

てんこもりのわは、松見町にある築約50年の2階建ての一軒家。オープンして1年以上が過ぎ、利用者の平均人数は30名ほど。昨年夏には一日を通して68名の利用者で賑わった日もあった。

ここを利用する人たちが、自分のペースでやりたいことを自由にできる工夫をしている。1階の部屋の窓はすべて掃き出しで、自由に入出入りができるようにしている。また、1階には3つの部屋があり、玄関すぐの部屋を「地域サロン」の大人の部屋。真ん中を「子どもの居場所」の子どもの部屋。一番奥を、赤ちゃんが過ごせる部屋として使っている。部屋ごとに区切りはあるが、誰でも自由に行き来ができ、他の部屋の気配を感じつつ、それぞれが安心して部屋で過ごせるようになっている。部屋がゆるやかに分かれていることで、利用者に落ち着きが生まれ、特に大人の利用者には好評のようだ。

2階の和室には、室内用ジャングルジムや滑り台、ボールプールなどがあり、雨の日でも体を使って遊べる。外では手押し三輪車などの乗り物や、夏にはプールを出し、開放的な遊びも提供できるようにしている。



「ここがあって良かった」と利用者の声



地域には、老人施設のデイサービスに行くほどではないが、出かける機会や話をする相手が減っている高齢者が少なくない。そんな方にとって、地域で気楽にお茶飲みやおしゃべりができるサロンは貴重な。ここでは、季節の折り紙や編み物かごなどを作りながら、お茶やお菓子を自由に楽しむことができる。

利用料は大人 100 円。「折り紙の作品が孫との話のきっかけになって、会話が増えました。毎週待ち遠しいです」と、欠かさず利用する女性は笑顔で語ってくれた。利用者は近隣の高齢者が多く、苦情になりやすい子どもの騒ぐ声にも理解があるようだ。

居心地の良さは、まるで親戚の家



加山さん(主任児童委員)

子どもたちが集まると、部屋に活気が生まれる。親子で一緒に訪れる人が多く、子どもはおやつを食べたり、宿題をしたり、親はスタッフたちと談笑して、つかの間の大人同士の会話を楽しむ。

運営者の加山さんは、「大事にしているのは、私たちはあくまでもサポーターということです。心地良い見守りを感じてもらうとともに、『ありがとう』や『ごめんなさい』の親しき中にも礼儀ありを大切にしながら、お互いに言いたいことを言い合える信頼関係を深めています」と語る。だからこそ、利用者が増え、親戚の家のような居心地の良さを感じるのかもしれない。

規模はまだ小さいが「子どもの預かり事業」も実施している。買い物や通院、親の息抜きなどに利用できる。利用者からは、親戚にちょっとお願いする感覚で預けられると好評。

「地域には『一緒にいてくれるだけでいい。話を聞いてくれるだけでいい。』と思っている人が多いです」と加山さんは言う。スタッフは全員、「いつでも話を聞くよ」の気持ちで利用者を迎え、SOS がキャッチできるようにしている。地域に役立つことをてんこ盛りに実施している「てんこもりのわ」は、人を思う優しさがてんこ盛りにあふれていた。

【てんこもりのわ】

開催日時：毎週木曜日 9時～19時

利用料：大人のみ 100円

会場：松見町「ライラック荘」